

「食事をするこの意味」

10月になってようやく過ごしやすい日々を迎えています。今年は梅雨が明けるとも早く、猛暑がとて長く続きました。皆様のご健康を守られ、支えられますようにお祈りいたします。



国分寺キリスト教会では6月に続いて、10月11日(土)教会カフェを開催します。6月の時はカフェとワークショップをしました。ちなみに昨年と一昨年はカフェとバザーを開きました。今回は盛りだくさんです。教会という共同体はまず第一に天地万物の創造主なる神様に礼拝をささげる群れです。実際に毎週日曜日午前10時から礼拝が行われており、日曜日の礼拝に限っては、礼拝の時間帯の変更はあったものの、1985年以来、40年に渡って行われ続けています。現在、毎週水曜日には聖書の学びと祈り会が行われ、野間の公民館時代、プレハブの礼拝堂を経て今に至りますが、集会は1978年からですので、さらにさかのぼります。教会活動の中心は礼拝と集会(聖書の学びと祈り会)であると言われますし、そのほかにも、子ども向けの子ども集会、中高生会を開いています。そして教会は「聖礼典(せいらいてん)」と言って、イエス・キリストが定めた、いわゆる儀式として「洗礼式」と「聖餐式」を執り行います。「聖餐式」についてはあとから触れますが、教会では食事をするのも一つの醍醐味と言えます。それを「愛餐会(あいさんかい)」と呼ぶこともあります。愛餐会と聞きますと、何か豪華な食事を思い浮かべる方もおられますが、香川県の教会では定番メニューとしてうどんを礼拝後の食事として食べることも多いのです。愛餐会を開く頻度も教会によってまちまちです(写真は6月の食事で、冷やし中華)。

聖書(新改訳聖書2017)を読むとイエス・キリストは弟子たちを初めとしていろいろな人たちと食事をする記事が書かれています。ルカの福音書24章36節以降、エルサレムで集まっていた弟子たちにイエスが姿を現わします。弟子たちは恐れおののいていました。弟子たちは今の今まで、イエスが復活されたという話をしていました。それなのに、実際にイエスが現れると、復活したということは考えられなかったのです。そんな弟子たちに対し、イエスのご自身のからだを確かにあることを明確に示されます。それでも、彼らはうれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっている様子を見て、イエスはさらに具体的な行動をとられます。**41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、43 イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。**復活のからだの特徴を理解させるために、イエスは「ここに何か食べ物がありますか」とおっしゃいました。復活されたイエスは、なおも食事をするのができたということです。医者ルカらしいことを書いていると言えます。十字架にかかれる前にも頻りに食事をされました。ほかにも、マタイの福音書9章10節「**イエスが家の中で食事の席に着いておられたとき、・・・**」、マルコの福音書2章16節「**パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと一緒に食事をしているのを見て、弟子たちに言った。**」とあります。一緒に食事をするということは、それが親しい関係であることを表しています。弟子たちはイエスが地上におられる時には、常に食事を共にして親しい関わりの中に生活してきました。十字架にかかれる前の出来事として「最後の晩餐」(マタイの福音書26章17-29節)もそのような食事の一つ、最後の一回でした。最後の晩餐でイエス・キリストはパンとぶどう酒の意味を明らかにされます。すなわちご自身が十字架にかかれることによって裂かれる肉体と流される血を説明されました。それが現代でも聖餐式として受け継がれています。最後の晩餐はとて意味ある食事となりました。

神様は恵みとあわれみに満ちたお方です。また愛と赦しを実際的に示してくださいました。神様は、神様に背き、さまよう人間のすべての罪を、十字架のイエスによって赦すことができるお方です。私たちには本来、心に「闇」があります。聖書はそれを罪と言いますが、その罪を認め、罪を悔い改めて神様からの赦しが与えられます。ぜひ、神様の大きな愛と確かな赦し、恵みとあわれみを受け取ることができますように、お祈りいたします。